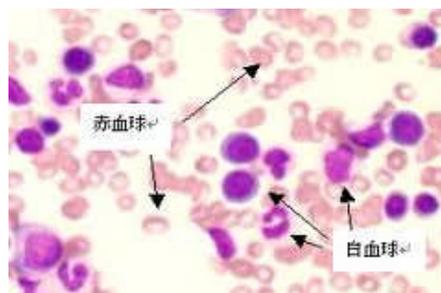
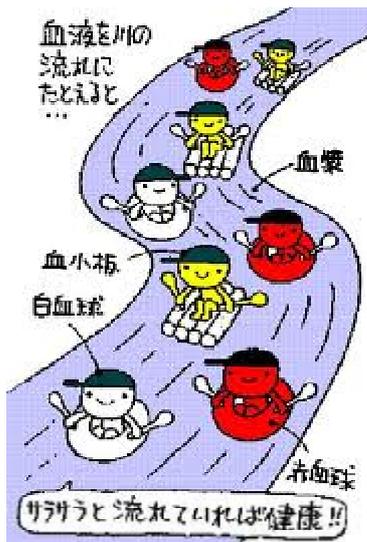


燃え上がった炎（ほのお）を消すには水をかけます。
でもホースが曲がったり、圧迫されていれば水の出が悪く炎を消す事が出来ません。



発赤、熱感、腫脹、疼痛と言う私達の体に起こる炎症を消すのは血液です。
血液が体を造り、命を養い、病気を治し、癌でさえも消し去ります。
歯の咬む力は 50 キロ近くありますので、噛み合わせの不調和があると
筋肉の異常緊張を起こし、局所的に血管を圧迫したり
噛み合わせの変化が頭の重心を変え、背骨が歪み、関節や内臓を圧迫し
関節痛や内臓の病気その他、局所の問題を起こしたり全身の血流低下を越こし
生命力を低下させ問題を起こします。
自然歯科では体全体のバランスを考え、顎が自由に動く様にすると同時に
顎と体が本来のバランスを取った位置に来るように顎の歪みを修整します。
その事で血管その他の圧迫が取れ、血流が良くなり生命力が増し、炎症その他
が改善されます。



炎症（えんしょう）とは、

- 生体が何らかの有害な刺激を受けた時に生体に起こる反応。
- 炎症は圧力、摩擦、熱、寒冷などの原因に対する生体反応であり、病気ではなく障害を受けた局所の機能回復としての有益な反応である
- 局所を犠牲にして全身を守るという免疫学的なシステムである。

発赤、熱感、腫脹、疼痛を「炎症の4徴候」という。

また、機能障害を含めて「炎症の5徴候」ともいう。

メカニズム

発赤や熱感は当該部位の血管が拡張することにより生じる血流の増加が原因である。

腫脹・疼痛は血管透過性が亢進して浮腫ができたり、C線維を刺激することで内因性疼痛物質が出現する。

炎症の原因

感染

外傷や熱傷などの物理的要因

アレルギー反応

経過

炎症の第1期：刺激を受けることにより、まずその付近の血管が一時的に収縮する

その後血管が拡張し血管透過性が向上する。直後には血漿等、血液の液体成分が漿液として滲出し、**炎症性水腫**となる。

炎症の第2期：ついで、白血球が血管内皮に接着し、血管外へと滲出し、病巣へ移動

する。この移動を遊走という。初期に滲出するのは好中球であり、ついで単球、リンパ球である。これらが感染を防ごうとする。

炎症の第3期：急性炎症では刺激が無くなると回復する。

損傷した部位は肉芽の形成や血管の新生により回復する。

臨床像

急性炎症 3～7日以内の炎症。

慢性炎症 7～8日以上 of 炎症。